

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

透析導入期の CKD 患者に対する入院中リハビリテーションが身体機能、ADL に及ぼす効果の検討

2. 研究責任者(当院)

所属： リハビリテーション室

氏名： 大野 隼汰

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属： リハビリテーション室

氏名： 加藤木丈英 田畑吾樹 三嶽侑哉 白井智裕

4. 研究対象者

2022年12月01日～2027年07月31日の間に、聖隷佐倉市民病院において、血液透析及び腹膜透析を導入となった透析導入期患者とする。

5. 研究の必要性

血液透析、腹膜透析患者は健常者と比較し筋力や体力などの身体機能が低値であり、身体機能の低下は生命予後や心血管疾患の発症、転倒に繋がることが報告されているため、透析患者に対して腎臓リハビリテーションを行い、身体機能の維持・向上を図ることが重要である。先行研究では、血液透析患者、腹膜透析患者に対するリハビリテーションの効果は散見されるが、主な対症者は維持透析患者であり、透析導入期患者に対するリハビリテーションの効果は十分に検討されていないのが現状である。CKD患者の身体機能は健常者と比較し低値であり、ステージの進行に伴い低下することが報告されている。さらに保存期CKD患者の身体機能は予備能が低下していると報告されており、ステージの進行した透析導入期のCKD患者はより身体機能が低値であることが考えられる。一方で、CKD患者の身体機能の経過を検討した研究では、保存期の身体機能と比較し、透析導入後に身体機能が低下することが報告されており、ステージの進行した透析導入期は尿毒素の蓄積、電解質異常、代謝性障害などが合併し、特に高齢のCKD患者は、身体機能が低下することが考えられる。さらに、透析導入時において骨格筋量の減少は予後不良因子であることから、CKD患者の透析導入期に身体機能の低下を予防する事は重要な課題であると考えられる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、運動機能評価や認知機能評価の実施により、身体的、精神的負担がかかる可能性があること、測定後に疲労感が残る可能性があることが考えられる。測定終了までに40分程度は時間を要しその時間は拘束されることが考えられる。対策として、研究途中であっても、対象者が心身のストレスを感じた場合、いつでも研究離脱が可能である事について研究依頼書に記載し、口頭でも十分説明する。また、測定中と実施前後には体調確認、バイタルサインを確認し、何らかの異常があれば実施を中止する。中止に伴い医療的処置が必要となった場合、研究者が責任をもって加入している理学療法士保険から支払いを行う。入院中に万が一、対象者の体調不良があれば主治医に報告し指示を仰ぐ。運動を行うことで血圧や心拍数などのバイタルサインや自覚症状の変化が起き

る可能性が考えられるため、あらかじめリスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。
本研究で予測される医学上の貢献の予測は、入院中のリハビリテーションの介入が、腹膜透析を含めた透析導入期患者の身体機能や ADL、生命予後の延長、透析リスク、QOL 低下の予防、理学療法分野における有効な評価指標や運動指導に確立に繋がることが考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：大野 隼汰

対応時間：8:30-17:00

共同研究において専用窓口がある場合

なし